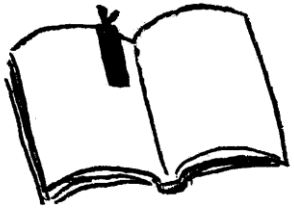

辞書の世界

1975年に岩波書店より『広辞苑第１版』が刊行され、今年でちょうど50年。今回は広辞苑に連なる歴史や、辞書そのものに焦点を合わせて深掘りしてみましょう。

『『広辞苑』をよむ』

今野真二／著　岩波書店　2019.12
ISBN: 978-4-00-431820-0

辞書を引いたときに目的の語以外にも目がいって「へ～、そんな意味もあるのか。」なんてことありませんか？　広辞苑を偏愛する国語学者が真剣に、時に遊びも加えながら広辞苑の使い方を紹介します。

『図説日本の辞書100冊』

沖森卓也／編　木村一／執筆　木村義之／執筆　陳力衛／執筆　山本真吾／執筆　武蔵野書院　2023.9
ISBN: 978-4-8386-0660-3

日本における現存している最初の辞書といわれている『新訳華厳経音義私記』や、近代的辞典の草分けとなった『玄海』など。多種多様な辞書を時期や事物によって引けるので、辞書の歴史を知ることができます。

『辞書の仕事』

増井元／著　岩波書店　2013.10
ISBN: 978-4-00-431452-3

岩波書店で約30年にわたり『広辞苑』をはじめとした辞書編纂に携わってきた著者が明かす、辞書の編み方とは。言葉一つひとつとつぶさに向き合うその姿勢からは、単なるひた向きさだけではない学ぶ点が豊富にあります。

『100年かけてやる仕事』

小倉孝保／著　プレジデント社　2019.3
ISBN: 978-4-8334-2315-1

2013年イギリスにて、ちょうど100年かけて仕上げた「中世ラテン語辞典」が発表された。なぜこのプロジェクトはこれほど時間がかかったのか。この辞書を編纂する理由と熱意がどこにあったのか。辞書編纂の中でもひときわ長期にわたった仕事に胸を打たれました。

『広辞苑はなぜ生まれたか
－新村出の生きた軌跡－』

新村恭／著　世界思想社　2017.8
ISBN: 978-4-7907-1703-4

日本人なら誰もが名を知るといっても過言ではない『広辞苑』。ですが、編者の新村出（しんむらいずる）を知っている人はあまり多くないかもしれません。出の孫である著者が見聞きしたことも含めた一次資料を辿り、その素顔に迫ります。

第23回

書名でしりとり

書名の最後の一字で次の本へつなげていく企画、第23回の文字は前回の書名から「ク」です。

『車井戸は何故軋る
－横溝正史傑作短編集－』
（横溝正史著／末國善己編
東京創元社／2025.2）

ミステリ界の巨匠・横溝正史。名前は知っているけれど何から読んでみようかな……という方に、手始めにこの短編集はいかがでしょうか。精選された全17編が収録されています。表題作の「車井戸は何故軋る」は、<金田一耕助>シリーズの一つ。瓜二つの風貌に対し正反対の生育環境と性格を持つ男二人。入れ替わりを疑うその設定は、のちの有名作にもみられるものです。

ちらっと

Chiratto
Vol.52

2025年4月−2025年5月号

特集1　辞書の世界
特集2　いいお宿、あります
連載　書名でしりとり
お知らせ　西東京市図書館からのお知らせ　FM西東京で紹介した本

いいお宿、あります

今年も相次いで開業するオシャなホテルの案内……はガイドブックにまかせて、「泊まる」ことを色々な角度から紹介する本を集めました。

ビジネスの側面から

『ゲストハウスがまちを変える』
渡邊崇志／著　学芸出版社　2022.4
ISBN: 978-4-7615-2814-0

『ホテルビジネス』
林田研二／著　クロスメディア・パブリッシング　2024.8
ISBN: 978-4-295-41007-2

宿泊業の世界を知りたい人にも、やってみたい人にも。ノウハウからカルチャーまで。

お宿の奮闘記

『女将は見た温泉旅館の表と裏』
山崎まゆみ／著　文藝春秋　2020.12
ISBN:978-4-16-791620-6

『京都で町家旅館はじめました』
山田静／著　双葉社　2019.10
ISBN:978-4-575-31498-4

「中の人」の、ドタバタ、赤裸々ながらも楽しげなエピソードの数々。ちょっとイイ話も。

あの日、あの人

『文豪が泊まった温泉宿50 』
週刊朝日編集部／著　朝日新聞出版　2019.11
ISBN:978-4-02-331854-0

『宿帳が語る昭和100年』
山崎まゆみ／著　潮出版社　2024.6
ISBN:978-4-267-02429-0

つけを10年貯めた川端康成、ロケの終わりに「寅さん」が残した一言。宿の人だけに見せた裸の逸話の数々。

快適空間の魅力を解剖

『東京ホテル図鑑』
遠藤慧／著　学芸出版社　2023.8
ISBN: 978-4-7615-2857-7

『ホテル客室図面集』
商店建築社　2023.10
JAN: 4-9100-4466103-6

素敵なホテル空間の事例集としても、眺めて楽しいイラスト集としても。間取り図がお好きな方にぜひ。

ゆっくり侘び寂び

『鄙び旅鄙び宿』
道民の人／文・写真　二見書房　2024.5
ISBN:978-4-576-24033-6

『日本ボロ宿紀行　改訂版』
上明戸聡／著　鉄人社　2023.1
ISBN:978-4-86537-253-3

文化財の宿から商人宿、昔ながらの駅前旅館。どこか懐かしい人情宿で身も心も安らいでみませんか。

よみがえる旅籠

『江戸東京たてもの園　万徳旅館復元工事報告書』
江戸東京たてもの園／編集
東京都歴史文化財団　2012.10

青梅で平成初めころまで営業していた旅籠の、詳細な解体復元記録。写真付きで骨組みまでわかる記録は貴重かも。

登録情報の変更はカウンターまで

図書館に登録した住所・氏名等に変更があった場合は、図書館カウンターへお知らせください。氏名・住所の変更の場合は、変更内容を証明する書類の確認をいたします。利用者カードと併せてご持参ください。
※図書館ホームページからの変更はできません。

FM西東京で紹介した本

『ラスト1行でわかる名作300選』
斎藤美奈子／中央公論新社／2025.1

「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。」「木曽路はすべて山の中である。」よく知られた名作の「アタマ」の部分です。では同じ作品のラスト、「オシリ」をご存じですか、がコンセプトの1冊。ラストがわかってしまったら読む楽しみが減るじゃないか、結末を読む前に知るなんて、等の声を吹き飛ばし、著者は強気に言います。ラストが割れたくらいで興味が失われる本など、最初からたいした価値はないのである、と。そんなわけでこの本は、作品のラスト一行に着目し、なぜその一行だったのか、あるいはその一行で良かったのか考えてみるちょっと変わった本です。オシリに注目すると、さて何が見えてくるでしょうか。

『空のふしぎを解き明かす
天気はなぜ変わるのか』
渡部雅浩／ニュートンプレス／2024.11

雨や雪がどうして降るのか、四季の天気がそれぞれ違う理由とは。世界的な大気の動きや近年ささやかれる異常気象を科学的に読み解きます。最新の天気予報がスーパーコンピューターを駆使してどうやって作られているのかも紹介しているので、本書を読破した方は、普段の天気予報や空模様がひとあじ違って見えるかもしれません。

発行：西東京市図書館
https://www.library.city.nishitokyo.lg.jp